

令和 6 年度 学校評価（各部・学年・教科の努力目標及び具体的方策）

本年度の重点目標

1 確かな学力を育成するために、学習習慣の確立を支援するとともに、多様な学習活動を行う

- (1-1) 学習意欲を喚起する授業改善に取り組み、生徒が学ぶ楽しさを知ることによって自主的・自律的な学習習慣の定着を図り、確かな学力を育成する（学習指導部）
- (1-2) 各教科・科目等の相互の関連を図りながら、教科等横断的な学習を充実させる（学習指導部）
- (1-3) 読書を奨励し、豊かな教養と高い知性、社会的見識を身に付ける（学習指導部）

2 豊かな人間性を育むために、学校行事・部活動・ボランティア活動など、様々な活動の場を提供する

- (2-1) 体験により実感させる活動(部活動、学校行事、生徒会活動、学校家庭クラブ活動等)に主体的に取り組み、自己肯定感を高めるとともに、共感する心を培う（特別活動部）
- (2-2) 学校不適応生徒の予防的措置と組織的な体制強化を図る（生徒指導部）
- (2-3) 報・連・相を徹底し積極的に情報共有することで、いじめ問題等の根絶に努める（生徒指導部）

3 より高みを目指した進路実現のために手厚い指導・支援をするとともに、探究型キャリア教育を推進する

- (3-1) 「キャリアプロジェクト啓」や地域連携活動により学びの幅を広げ、より高みを目指した進路意識を醸成する（進路指導部・特別活動部）
- (3-2) 個に応じた多様な進路選択が実現できるよう、3年間を見据えた「キャリアプロジェクト啓」のブラッシュアップを目指す（進路指導部）
- (3-3) 自己の在り方生き方を考え、社会参画・社会貢献の意欲を育む（進路指導部）

4 安全・安心な環境のもと、保護者や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する

- (4-1) 安全・安心な教育環境づくりに努める（健康指導部・生徒指導部）
- (4-2) 広報活動を充実させ、教育活動への理解を図る（教務部）
- (4-3) P T A や同窓会と連携し、地域のなかで信頼される学校づくりに努める（渉外部）

5 教職員がやりがいをもって職務にあたるとともに、業務改善と意識改革により、生徒と向き合う時間を確保する

- (5-1) 教職員がやりがいをもって意欲的に取り組めるよう、協働できる環境をつくる（教務部）
- (5-2) 校務分掌の職務内容や分担を継続して検証するとともに、業務の見える化を図る（教務部）
- (5-3) 校務支援システムをより効果的に活用する（教務部）

令和 6 年度 努力目標及び具体的方策

教務部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○業務改善と意識改革により、生徒と向き合う時間を確保し、教職員がやりがいを持って意欲的に取り組み、共働できる環境をつくる。5-1, 5-2, 5-3	○校務分掌の職務内容や分担を検証し、業務の見える化を図る。 ○校務支援システムをより効果的に活用する。 ○ICT 支援員との連携し、業務の効率化を図る。	B	成果 ：毎日の職員間の連絡や、月ごとの生徒の出欠や欠課時数、成績処理、指導要録の作成などで校務支援システムが効果的に活用されるようになった。また学校支援員や ICT 支援員などと連携することで、業務の効率化がある程度図られてきた。 改善すべき点 ： ・校務支援システムが全ての高校に対応できるよう汎用性が高く設計されているため、どこにどのような機能があるのか分かりにくく使いづらいため、改善が求められる。 ・校務分掌の業務内容と分担の検証を十分に行い、業務の見える化を図っていくことが今後の課題である。
○安全・安心な環境のもと、保護者や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。4-2	○学校案内を通して広報活動を充実させ、中学生等に対する教育活動への理解を図る。 ○特別活動部や学年等と連携して、学校HPの更新を、充実させる。	A	成果 ：今年度は学校案内を刷新することで、中学生や保護者に対し、本校の教育活動をより効果的に発信することができた。また Classi など ICT を活用することで、生徒や保護者へより正確で頻度の高い情報発信が可能となった。 改善すべき点 ：学校全体や各学年の行事、部活動等活動の様子を、それぞれの担当がHPを通じ可能な限り発信したが、中学生等に対する情報発信という意味では、今後は Classi を通じた情報発信と、HPによる情報発信の棲み分けを工夫する必要がある。

学習指導部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○学習意欲を喚起する授業改善に取り組み、生徒が学ぶ楽しさを知ることによって自主的・自律的な学習習慣の定着を図り、確かな学力を育成する。1-1	○各種調査、講演会、ICT 等を活用した授業研究の推進し、公開授業を活用して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、授業改善に資する。	B	成果 ：ICT や学習支援ツールを使用して授業の工夫が見られ、生徒の学習意欲を向上することができた。 改善すべき点 ：引き続き公開授業等を通して授業改善に取り組み、生徒に還元できるような取り組みをしていく。
○各教科・科目等の相互の関連を図りながら、教科等横断的な学習を充実させる。1-2	○文系・理系の枠にとらわれず、各教科等の学びを基礎としながら、様々な情報を活用した授業を工夫し、実践していく。	B	成果 ：授業で文理を問わずに様々な分野の知識を活用し学習することができている。文理にとらわれずに考えることができる生徒が増えている。 改善すべき点 ：教科等横断的な学習の取り組みや授業をもっと充実させていく。

進路指導部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○進学意欲の向上と受験指導の充実 3-1, 3-2	○進路行事、進路情報提供、進路相談を効果的に行う。 ○学年と進路の連携を強化し、模試や課外を有効活用しながら生徒一人一人に合った受験指導をする。 ○面接・小論文指導については全職員である。	A	成果 ：進路資料室での情報の更新を毎日行い、資料室を活用する生徒も見られた。生徒一人一人に熱心に対応している先生が多かった。面接小論文指導については全職員で実施できた。 改善すべき点 ：進路が決まった生徒への指導
○キャリアプロジェクトの充実 3-1, 3-2	○昨年度の探究活動をさらに改善し、深化をはかる。 ○生徒が主体的に動けるような企画の工夫をする。	B	成果 ：各大学や外部の方々との連携を図り生徒が探究に対して取り組みやすい環境を提供していた。三菱みらい財団の助成を受けることができた。 改善すべき点 ：学校の方針を共通理解できるよう、教員間で認識をすりあわせる必要がある。

特別活動部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○教科外活動の活性化の推進を図り、生徒が各種活動に主体的に取り組める環境整備を行う。 2-1	○主体的な生徒会活動の推進と部活動の参加、活潑な活動の推進、学習との両立への指導を行う。	A	成果 ： ・積極的な参加がみられた。 ・生徒の高い関心のもと部活動を行っている。 改善すべき点 ： ・部活動再編は計画的に。 ・生徒会が中心になりすぎて、各クラスの委員があまり動けていない。
○生徒会行事の推進と学校行事に積極的に関わり生徒間の親睦を深め、他を思いやる心や共感する心を育む。2-1	○クラスマッチ、合唄コンクール、葉聖里祭の企画運営を生徒会および関係クラス委員で実施し成功に導けるよう尽力する。	B	成果 ： ・行事が盛り上がり成功していた。 ・学校評価においても生徒、保護者とも肯定的な意見が多く主体的に活動できた。 改善すべき点 ： ・学校祭では生徒中心に進められるよう、教職員が支援する。 ・行事の翌日の欠席者を少なくする方策を検討する。

生徒指導部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○生徒が生き生きと学習活動や部活動などに主体的に参加、努力することで豊かな人間性を身に付けさせる。4-1	○登下校時の挨拶や資格取得、部活動、ボランティアなどの活動を通じて、生徒が自ら声を発し、行動出来るように育成する。	A	成果 ：生徒・保護者アンケートより部活動への取り組みが良く出来ている。 改善すべき点 ：より多くの生徒が挨拶を自らできるようにする。
○交通ルールや校則など規則を守ることの重要性をしっかりと理解させ、生徒に社会性を身に付けさせる。4-1	○日常生活で交通ルールや規則を意識し、時間を守り、教室や身の周りの清掃を行い、礼儀正しい挨拶が出来る生徒育成する。	B	成果 ：清掃や挨拶をしっかりと行う生徒が増えてきた。 改善すべき点 ：身の周りの清掃ができない生徒や歩きスマホをしている生徒の指導を徹底する。

健康指導部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○生徒が安全・安心な学校生活が送れるように環境を整え、健康の維持向上を意識して生活し通いたい学校づくりをする。4-1	○校内の安全確認を行い、危険箇所の把握・改善に取り組む。また、自ら健康になるための行動を促すため様々な場面で働きかける。	B	成果 ：古い物の処分や交換など、日々確認し改善傾向にある。 改善すべき点 ：机・椅子の古い物は交換すべき。意識は生徒間の差が大きいので、全教員で指導をしていくべき。
○教職員の健康を維持向上させるため環境整備とサポート体制を構築する。4-1	○相談しやすい環境作りと、プライバシーに配慮した相談体制の確立を実施する。また、受診等で休暇を取りやすい雰囲気づくりをする。	B	成果 ：健康診断は全職員が実施できた。相談は校内だけでなく校外の環境や講演紹介を行ったがどこまで参加し活かされたかは見えない。 改善すべき点 ：辞職した教員もいたことから、環境作りとサポートの徹底が必要。一部への負担が大きい。SC 利用を案内する。SC 相談時間を作りたいがタイミングが合わない。管理職のリーダーシップで部活動の精選を検討する。

渉外部

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○学校の努力点を具体化するための協力援助 4-3	○OPTA 活動の見直しを行い、効率的な活動を推進する。	A	成果 ： ・新しい役員を希望制にして募ることで、役員の意識が向上した。 ・総会の持ち方を変え、準備の負担を軽減した。 改善すべき点 ：総会時の質疑応答などをもっと効率化する。
○積極的に保護者と職員との相互理解を図る 4-3	○親善レクリエーションなどへの参加を通して、保護者と職員とのより良い関係の構築に努める。	B	成果 ：文化祭に参加した。 改善すべき点 ：P T A 活動の精選を行ったが、レクリエーションなどがなくなり、このままで良いのか検討したい。

1 学年

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○授業を真剣に受け、『国数英は予習・理社は復習』を意識で学習サイクルを確立し、基礎学力の向上を目指す。	○生徒への声掛けの工夫し、目標の意識づけをする。 ○朝学も利用し、学習サイクルの確立を目指す。	A	成果 ：生徒・保護者評価も肯定的であり、模試においても平均偏差値が過去最高であった。授業や朝学においても真面目に取り組んでいた。 改善すべき点 ：国数英から理社への比重の移行が難しい。また、予習の意識づけさせることも課題である。
○礼節を重んじ、自他を深く敬愛する精神を養う。特に他人を尊重し、いじめを根絶する。	○悩み等を話やすい環境づくりをする。 ○課題に対して、皆で解決することを生み出す。	B	成果 ：基本的な習慣や礼節の意識づけは、できた。いじめ等の問題に対しても早期・適切に対応できた。 改善すべき点 ：いじめ等が発生した場合は、校内検討委員会を中心に、迅速かつ丁寧に対応する。

2 学年

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○進路についての目標を具体的に設定し、計画性を持って学習に取り組む姿勢を養う。	○進路行事を通して進路に関する意識を高め、自主的に学習に取り組む環境を整える。 ○家庭学習を習慣化し、毎日の学習を通して基本的な力の強化を図る。	B	成果 ： ・朝学や土曜講座、放課後の学習、Kei プロの探究活動を通して、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。 ・進路行事やオープンキャンパスに積極的に参加し、自分の将来について具体的に考える生徒の姿が見られた。 改善すべき点 ：自主的に学習に取り組む姿勢が二極化している。学習時間が不足している生徒も見られるため、受験をしっかりと意識し自分の進路実現のために学習に取り組むよう、働きかけ方を工夫していく。根気強く声掛けを行いながらも、それぞれの生徒に応じた対応を考えていく必要がある。
○保護者や地域と協力して成長を支え、2学年としての自覚を持って意欲的に学校行事に取り組ませる。	○面談を通して生徒理解を深め、悩みや相談に対しては学年全体で協力して対応する。 ○学校での様子を積極的に伝え、中心学年として意欲的に学校行事に取り組ませる。	A	成果 ： ・Classi やホームページを活用して情報を発信するなど、保護者との情報共有がとりやすくなった。 ・学年団が協力して学年全体の生徒に関わる体制がとれており、早めに話し合いや相談をしながら、心配な生徒に対して早期に共通理解を図りながら対応した。 改善すべき点 ：生徒が主体的に活躍する場面が増えたが、一方で自分の考えを持ちながらも積極的に発言することを苦手とする生徒もいる。不安を抱える生徒など個々生徒の特性を見極めながら細やかな対応をするためにも、保護者との連携をさらに強化していく。

3 学年

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○進路目標を早期に立てさせ、自己の進路希望実現に向けての学力向上を促進する。	○平日「学年＋１時間」以上、休日は倍の自主学習を目標とし、課題の内容も改善する。 ○平日・土曜・長期休業中の課外を充実させる。	B	成果： ・朝学（英語など）が習慣化してよかった。自習ができていた。 ・共通テスト準備など、それぞれの目標に向かって学習できていた。 改善すべき点： ・課外授業をもっと魅力あるものにすべきだった。（参加人数が少ない）実施方法を改善すべきである。 ・課外授業の日程調整が必要である。 ・土曜課外は実施の有無も含めて、検討すべきである。 ・進路内定者の学習指導を徹底する。 ・学習量が不足している。
○自分で物事を考え、自分で解決していく姿勢を身に付けることができるよう支援する。また最高学年としての自覚をもたせ、リーダーシップを発揮させる	○学校行事に意欲的に参加させ、自主的で、規律ある学校生活を送らせる。 ○進路関係の学校行事を外部機関を活用しながら実施し、進路実現に向かわせる。	A	成果： ・多くの生徒は規律ある学校生活を送っていた。 ・外部機関を活用して進路実現の準備ができた。 ・小論文や面接対策等が役に立った。講座が充実していた。 ・最高学年として取り組み方がよかった。 ・学校行事への参加率が高く、ルールをよく守っていた。 改善すべき点： ・生活態度が芳しくない生徒への指導をもっとすべきだった。 ・生徒にもっと進路に関する後押しがあってもよい。 ・進路行事をより効果的にするために、実施時期を検討する。

国語科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○学習習慣の定着をはかる。	○授業を中心にした課題を作るようにし、課題や教材の効果的な提出をさせる。	B	成果： それぞれの学年において授業展開に見合った課題を作成することで、生徒は個々に応じた学習に取り組みやすくなった。 改善すべき点： 欠席や学校行事等で不規則な日課を過ごす場合に、学習状況の把握が徹底できなかった。
○自主的な学習にとりくめる環境を整備する。	○生徒が学習計画を立てやすいように年間を見通した課題計画を提示する。	B	成果： それぞれの学年において課題計画を提示することによって、生徒は全体の見通しをたてることができた。 改善すべき点： 部活動の繁忙期や他教科課題と重複した時期は取り組みの不十分さが目立った。取り組み方に課題が残った。

地歴公民科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段） 改善すべき点（下段）
○地理・歴史への興味を持てるよう授業計画を行い、理解を深め定着をはかる。	○学習に主体的に向える動機付けをはかり、地理的・歴史的な知識の定着と思考力の伸長をはかる。	A	成果： ・インターネット上で提供される Google マップや GIS（地理情報システム）を使って、地形や都市の分布、気候条件などを視覚的に把握し、思考力を高めることができた。 ・ ICT 教材を活用し、映像資料や地図、グラフ、統計資料などを効果的に用いることで、生徒の興味関心を喚起し、知識の定着をはかった。またハザードマップなどを用いたグループワークを通じ、身近な地域で予想される災害を考察し、思考力や判断力、そして自らの考えを発表する表現力を養う授業展開を心がけた。 ・ 講義形式の授業の他に、映像やタブレットを使いながら、既習事項の確認を行った。また、生徒同士のグループワークも入れ、自分の意見や考え方を発信できた。 ・ 世界史や歴史総合に興味を持てるよう、ロイロノートや ICT 機器、「学び合い」などを活用しながら授業に取り組んだ。その結果、生徒同士の学び合いが行われ、興味・関心を高めるとともに歴史の理解が深まった。 改善すべき点： ・ ICT を用いすぎることによって、生徒が情報過多に陥ることがあった。 ・ 各々の生徒の理解度には幅があるため、情報過多により思考が進まなくなる生徒もみられた。適切な教材の取捨選択をするなど、教材の精選が今後の課題である。 ・ 課題づくりに苦勞した。単に穴埋めだけでなく思考力をより高める教材を作成したい。
○現代社会で起きている諸問題に対する理解と関心を深める。	○自己をみつめ、社会とのかかわりを考え、当事者意識を持つことにより、世界の諸課題に対する思考力や表現力を養う。	A	成果： ・ ギリシャの三哲の学を学び、自分の行動基準や人生の目的を考えるきっかけとなった。ベンサムやミルの「功利主義」について考えより自分らしい倫理観を身につけることができた。 ・ 平和主義（憲法第 9 条や戦後の外交政策）を学ぶことで、生徒は自国の戦争に対する立場やその背景について深く理解し、自分たちの平和のためにできるのかを深く考えることができた。自分がどのように平和を守るために行動すべきかを考え、自国だけでなく、世界全体の問題に対して責任を感じる意識が強くなった。 ・ 生徒に、今起きている国際問題への理解を深めてほしいという思いから、駐日欧州連合代表部による出前授業「EU があなたの学校にやってくるプロジェクト」の企画・運営を地歴公民科の教員を中心に各先生方のお力をお借りしながら実行した。その結果、ルーマニア大使が来校し、生徒の質問に直接答えてくださる機会を設けるなど、有意義な学びにつながった。 改善すべき点： ・ 生徒が自分の考えを表現できるよう、意見形成の場を用意し、ニュースなどから生徒たちが興味を持てるテーマを選定する必要性を感じた。 ・ 株式や為替に関する模擬金融演習、グラフの読み取りと背景の考察が不足してしまった。

数学科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○授業の充実を図りながら、自主的・主体的態度の育成をし、基礎基本の定着を図る。	○授業目標を明確にし、その目標を実現するために、課題や発問の工夫をしながら、学習活動を充実させる。 ○家庭学習を促進する。 ① 1 学年においては、家庭学習の定着の工夫 ② 2・3 学年においては、自己実現に向けての学力および意欲向上の指導の工夫 ○観点別評価を意識した指導やテスト作成を行い、検討する。	B	成果 ：定期テスト前の学習だけでなく、家庭学習の定着が図れた。朝学の時間を使って模試の対策ができ意欲が向上した。各学年で協力できた。指導・評価が適切に行われた。 改善すべき点 ：完成ノート以外にも自ら学習をするための工夫が必要。土曜講座の内容と担当者の割り振りについて、検討が必要である。
○教職員間で、情報を共有し連携しながら、生徒 1 人 1 人にきめ細やかな指導し、進路実現可能な学力を身につけさせる。	○定期試験や実力試験、模擬試験等の分析を学年だけでなく、教科内で共有し、指導方法の工夫や教材選定を実施する。 ○1 年土曜講座を全員で対応し、生徒状況を共有する。 ○質問に来た生徒に対して、全員で対応できるようにする。 ○大学共通テストに対応できる指導法を検討する。	B	成果 ： ・土曜講座・質問について全員で対応することができた。 ・教科会で試験の分析が行えた。 改善すべき点 ： ・授業内容進度、副教材など学年単位で動いてしまい、科としての共通理解が得られていない。 ・質問に来る生徒が減っている。

理科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○学習意欲を起こさせる授業を展開する。	○生徒が興味関心を持って主体的に学習に取り組むことができるように、日常生活に関連した身近な現象を実感させるような学習活動を充実させる。 ○大学や企業の方を講師に招いて、現代社会との関連を知るための探究講座を実施する。	B	成果 ：実験やコラムをとおして、日常生活との関連や身近な現象から、興味を持ち学習に取り組む様子が見られた 改善すべき点 ：今年度は、探究講座を実施しなかった。生徒の希望も多様であるため講座数にも限界があるためである。いろいろな大学の体験プログラム等の案内を掲示し代替した。
○進路実現のための指導や支援を行う。	○学力に応じた段階的な指導の実施や到達目標を持たせることで学力の定着と向上を目指す。 ○授業、週末課題、土曜講座等を活用し、様々な問題・課題に挑戦させ、実践力を高める。	B	成果 ：問題演習プリント等を用いて段階的な指導ができた。また、物理と生物では 2 年の朝の学習で基礎基本の定着を指導した。 改善すべき点 ：長期休業中の課題や他の課題の提出状況が、あまりよくない傾向がある。今後は、徹底した指導を心がける。

英語科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○基礎から応用までを踏まえた分かる授業の推進	○5技能を意識した授業の展開 ○相互活動を含めたアウトプットにつながる授業の工夫	B	成果 ： ・タブレットなどのICT機器を活用し、幅広い活動ができた。 ・ALTの協力もあり、パフォーマンステストの実施など、アウトプットにつながる授業が実践できた。 改善すべき点 ：ALTによる授業を増やし、スピーキングやプレゼンテーション等にもっと取り組ませたい。
○評価の工夫	○定期試験、実力テスト、課題テストの内容の吟味と実施後の指導及び評価の工夫と改善 ○小テスト、週末課題等の選定や内容、実施方法、評価の工夫 ○適切な観点別評価の確立	B	成果 ： ・観点別評価の校内基準に従って、適切に成績処理を行うことができた。 ・生徒の実情に合わせた課題や小テストを課し、基礎力の定着がはかれた。 改善すべき点 ： ・定期テストの出題内容や、課題の量や内容をさらに検討する。 ・よりよい評価の在り方について教科内でさらに検討していきたい。

保健体育科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○心身ともに健全であり、礼節をわきまえ品格を持って行動し、自己実現を目指して活動する生徒を育成する。	○運動や礼節の大重要性を自覚させ、実際に行動し身につけさせる。活動は自己の目標設定をして実施し、達成することで自己肯定感を向上するようにする。	A	成果 ：行動・挨拶等が全体的に品格とプライドを持って実施してくれるようになったと感じる。挨拶できる生徒が殆どとなった。 改善すべき点 ：生徒の自主的行動をもっと増やしても良かった。次年度は更に自ら考え行動させる機会を増やしていきたい。
○自他の生命を尊重し、生涯を通じて健康と安全の課題に適切に対応できる生徒を育成する。	○保健学習においては、生徒が自ら研究し課題発見、探求、発信する体験をさせ、社会で活躍していく自信を持たせる。	A	成果 ：課題研究をさせ、まとめてクラス内で発表させることができた。成功・失敗、どちらも大きな学び・体験になったと実感する。 改善すべき点 ：一人に1度しか発表機会を作れなかったため、何度か設けられるように工夫をする。

芸術科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○感性豊かで創造力ある人間の育成	○芸術の多様な表現に関心を持ち、生徒が自ら主体的に取り組もうとする意欲を喚起できる授業の導入の工夫・改善を図る。	B	成果 ：コロナ前の授業ができるようになり、多様な芸術に関心を持つ生徒が増えた。 改善すべき点 ：主体的に取り組むことができる喚起の仕方、授業の導入の工夫には課題が残った。
○芸術を愛好する心情を育てる	○幅広い芸術を鑑賞し、時代背景や文化を理解し、その良さや美しさを感じてするための工夫をする。	B	成果 ：生涯学習につなげるために、芸術の美しさを感じ取る感性を磨くことができた。 改善すべき点 ：上辺の美しさだけでなく、奥深くにある芸術の良さ、面白さを教授できるよう工夫する。

家庭科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○課題解決型学習の実施により、己の力を再認識し、自己肯定感を高める。	○ホームプロジェクトを実施し、課題解決力をさらに向上させ、互いに発表することで、他者の学びを取り入れ高め合う機会とする。	A	成果 ：互いの発表から多くの気づきを得た様子が振り返りシートに表れていた。 改善すべき点 ：発表の機会を増やす
○体験により実感させる活動に主体的に取り組み自己肯定感を高めるとともに共感する心を培う。	○3年保育基礎においてインターンシップを実施し、園児と生徒の心の交流を深めさせる。	B	成果 ：園児とふれあうことができた。絵本読み聞かせや活動から交流を深めることができた。 改善すべき点 ：事前学習で、対象児年齢の発達段階の特徴をもっと学習させて年齢に合わせた言葉かけをできるようにさせたい。

情報科

努力目標	具体的方策	評価	成果（上段）
			改善すべき点（下段）
○受験に対応できる力の育成（3年）	○課外授業の工夫 ○模試の復習や受験指導の工夫	B	成果 ：課外や個別指導を実施できた。 改善すべき点 ：受験指導の確立。
○情報や情報社会に関心を持ち、自ら進んで情報及び情報技術を活用してできる力の育成（2年）	○情報を適切に取り扱うことができるメディアリテラシーを身に付けさせる。 ○探究活動において、課題解決に興味を持ち、自ら進んで情報を活用できるよう指導する。	B	成果 ：意欲的に取り組み、技術とスキルを身に付けられた生徒が増えた。 改善すべき点 ：教員側のスキル向上をさらにはかる。